

研修名 チャレンジプレゼン

(プレゼンテーション研修)

平成28年5月25日(水) 10:00~12:30

会場 京都府立総合社会福祉会館

1 講演要旨

1) 「きちんと噛める子を育てる～手づかみ食べをうながすために～」

槇島ひいらぎ保育園

手づかみ食べとは・・・？

目の前の食べ物に興味を持つ→自分で食べたいという意欲が出てくる→手で触ってその素材の触感に慣れる→手でつかんで口に入れて一口量を知る→手首、指の発達を見て食具を使う

手づかみ食べを促すために大切にしていること

○手指先を使う遊びを多く取り入れる○様々な感触のものに触れる遊びを体験する○バラエティーにとんだ食材を提供する○繰り返し、噛む経験を増やす○離乳食の段階をきちんと経て食べる

質問: 麺類はどれくらいの長さにはしていますか? 答え: スプーンに乗る長さ、約3~5cmにしている。

2) 「自然と虫とおともだち」友岡保育園

保護者を対象に子どもが虫に触れ合うことをどう受け止めていますか? とアンケートをとった。

保護者は虫が苦手な方が多く、子どもが捕まえてきたら逃がすように言うという保護者が70%いた。しかし保育所ではふれあう機会を作って欲しいという意見が99%、ふれあう中で命の大切さ、虫の生態、思いやりや優しさを学んで欲しいというアンケート結果だった。また危険な虫について調べて欲しいという保護者の意見から危険な虫についても調べた。

質問: アンケートのフィードバックはどのようにしていますか? 答え: 乳児、幼児懇談会というものがあり、そこでフィードバックした。

3) 「意見集約に困った時は」なごみ保育園

困ったと感じる時はクラスや学年の意見をまとめる、行事スケジュールやドキュメンテーション作成等である。このような時にポストイットを使用しKJ法を使って意見の集約をした。この作業のポイントは難しく考えない、思いついたことを書く、一枚のポストイットに意見をひとつ書くという点である。またKJ法のメリットは自分の意見を出しやすい、頭の中の整理ができる、短時間で意見集約ができる、視覚的に共有化できる、保育の意味や意図が明確になるという点である。



4) 「歩行について」 海印寺保育園

なごみ保育園の6ヶ月～2歳の21人中9人が歩けないため保護者向けにアンケートをとり平均値をとったが、食事の量や体格・身長を比べてもはっきりした差がでなかった。

歩くために必要な条件として身体的発達、脳の発達、赤ちゃん自身の欲求、物的・人的・環境的要因がある。物的・人的・環境的要因は大人の語りかけによって変わる。近年は前抱きの抱っこひもを使用している保護者が多く、理由として両手が空くことやベビーカーより過ごしやすいたことがあげられている。前抱きの抱っこひもを長時間使うと股関節の開排固定が開きO脚になりやすく、ハイハイする時に足を閉じずらくバランスがとりにくくなる。また、反り身になって頸椎や胸部に負担がかかることや視線と反対方向移動による三半規管発達阻害になることもある。

育児の情報を聞くのに医師の次に保育士を頼る保護者が増えている。

質問:アンケートについて

質問:保育園ではこの環境を踏まえてどんな関わりをしましたか? 答え:保育士が調べたこと等も保護者にフィードバックしています。

5) 「保育士の質の向上をめざして」～「子ども時間」の設定による子ども主体の保育を展開するために～ 八雲保育園

「子ども時間」は異年齢を基本とし、登園後すぐにしたい遊びが始められるように、四季の自然を利用した園庭での遊びや造形遊び等を設定している。活発に遊んでいるか、工夫しているか、言葉を発しているか、伝え合っているか、学びを深めているかを目的として行っている。「子ども時間」を実践することにより遊びが質的に変化した。

質問:「子ども時間」はどれくらいの頻度で行うのか? 準備にどのような時間をとっているのか? 答え:幼児クラスを中心に午前中に行っている。保育の合間にあの子はこんなことをするかなという予想をして準備している。

質問:話し合いの時間はどのようにとっているのか? 答え:すれ違う時に今日の出来事を話すなど子どもの姿を共有している。また、月一回土曜日の午前に会議をしたり夕方にクラスで集まって話し合っている。

2 感想

プレゼンテーションというとても固く、難しいものだと感じていましたが、各園のプレゼンテーションを聞き、保育の内容、職員の意見のまとめ方等、テーマの視点が様々で、保護者アンケートや実践してみても職員の感想なども発表されており、とても勉強になりました。このような形で他園の情報を聞く機会がないのでよい経験となりました。

(記録 せいかだい保育所 林 志帆子)